会　議　結　果

会議名	令和元年度第２回　西尾市立図書館協議会
日　時	令和元年９月２７日（金）午後３時１５分～５時１５分
場　所	西尾市立図書館　会議室
出席者	安井会長、尾崎副会長、小嶋委員、中村委員、浅井委員、相庭委員、青山委員、鳥山委員、林委員、大須賀委員
市係等出席者	稲垣教育長、内藤部次長、原田図書館長、生田主任主査、黒野主任主査
傍聴者	無し

協議会の中で出されたことは以下のとおり。

１　あいさつ

稲垣教育長

安井会長

３　議題

（１）雑誌・新聞に関するアンケートについて

生田主任主査より、雑誌・新聞に関するアンケート結果について説明。

西尾市の図書館では、雑誌の見直しを５年ごとに実施しており、今回雑誌だけではなく、新聞の閲覧状況もあわせたアンケートを実施した。期間は８月１０日から９月８日までの４週間で、本館と３分館での実施。西尾市立図書館の新聞・雑誌については、「西尾市立図書館蔵書収集指針」の中に示してある。しかし、その中には詳細な取り決めがないため、今回、所蔵の見直し方針をご提案し、委員の皆様のご意見をいただきたい。

基本的な考え方としては、新聞は、①専門紙は本館所蔵　②地域性が高いものは、該当館に所蔵とする。雑誌については、①各館に幅広い分野の雑誌を置き、ジャンルの偏りを減らす。②４館でなるべく重複購入をしない。ただし、貸出や閲覧が多い資料は２館までとする。③専門的なものは、本館に所蔵するとしている。

アンケート結果では、本館ではスポーツ紙を希望する声が多くあり、農業新聞といった専門紙や、日経ヴェリタス、株式新聞といった経済関係のものも出ている。現在、図書館に入っている新聞は主要なものばかりで、購入をやめることのできるものはないと考えている。そのため新たにスポーツ新聞を購入するのであれば、雑誌のスポーツ関係のもので、同じタイトルで複数館が持っているものの中から、どこかの館のものを購入中止としたらどうかと考える。ご意見をいただきたい。

また、雑誌についても色々な声が出ている。例えば、「オズマガジン」という旅行雑誌を希望する声が多くある。すでに各図書館にある旅行関係の雑誌は、９タイトルあるが、そのうちの５タイトルは複数館で持っている。その中で、利用の少ない館のものを「オズマガジン」に替える、というようにしていこうと考えている。このような見直し方針でいきたいと思うが、ご意見をお聞かせいただきたい。

質問：アンケート結果の雑誌名の前にある星印は何か。

→具体的な雑誌名ではなく、何々関係の雑誌というものに付けた印です。

質問：図書館には色々な種類、ジャンルの雑誌があり充実していてとても良いと思うが、来館者、利用者がどれくらい利用しているかという利用頻度は、どう計ることができるか。

→最新号は館内での利用のみとしているので、その利用を図ることは難しい。バ

ックナンバーについては、館外貸出をしているため、何回貸出しされたかというのは統計で出ます。

質問：(館外貸出しは)一月後にということですね。

→はい。新しい号が出ると前の号が貸出しの対象になります。

質問：ではそれで貸出し状況を見るということですね。

→はい。

質問：アンケートに出ている雑誌は大人の雑誌で、子どもの雑誌も(出版は)ありますよね。それは含まれてないのですか。

→このアンケート結果は、利用者から新たに置いてほしいという雑誌名を載せています。利用者の意見の中には子どもの雑誌は出ていません。ただ、子ども向けの雑誌は種類が少なく、ほぼすべて図書館には入れています。

質問：少し話がそれますが、この場でお聞きしたいことがあります。学校でよく百科事典のポプラディアを借りるが、図書館には何セットありますか。

→一般の人への貸出し用は１セットですが、学校用は５セットあります。

質問：文芸春秋や中央公論といった雑誌が毎月出ているが、それらもこの方針からいくと、一番多くて２館のみしか置けないようにするということですか。

→基本的にはそうしていきたいと思っています。ただ、最新号は館内の利用のみですが、貸出しができるようになれば、置いていない館の利用者も、予約をしてその館に配送することができるので、それで対応できると思っています。

意見：文芸春秋と中央公論といった雑誌くらいは全館あってもいいのでは、利用者が多いのではないかという気がするのだが。

質問：利用する館に置いてある雑誌のバックナンバーは、見て借りることができるが、他の館にどんな雑誌があるのかわからないので、検索して借りることができ　ない。この雑誌はここにある、というのがわかれば、それを検索して予約して借りることができるのだがどうでしょうか。

→今回アンケートを取ってみて、図書館に無く新たに置いてほしいという雑誌名の中に、その館にはないが、市内の違う館にはあるという雑誌名がたくさん出てきました。これは、私たちの周知が足りないことであり、市内すべての図書館にある雑誌の一覧を、雑誌架の近くに置くようにします。

質問：どの程度見られているかなというのがありますね。

→今後、見直して雑誌の入れ替えを考えていく中で、利用回数ももちろん見ていくようにします。

質問：アンケート問２の「よく読む雑誌をご記入ください」のアンケートは、図書館に今ある雑誌についてアンケートをとったものですよね。問４、問６の人数が４から始まって２とあるが、その後は空欄になっている。これはどういうことですか。

→すみません、１を入れていませんでした。空欄はすべて１人です。

意見：回答の人数が少ないですよね。実際にはもっと利用されているはずだと思います。アンケートの信憑性はどうか。信頼性のある数字を得るためにはどうしたらよいのか。これを書いてくださる方は関心を持っている方なので、それはそれでよいが、たまに図書館に来て雑誌を手にするだけの人もいる。数をうまく拾う方法、実態をつかむには工夫する必要があると思います。できるだけ数字が、市民というか利用者に近いものが出てくると、より見直す意味があると思う。

質問：問２の図書館でよく読む雑誌名に、たとえば「ゆうゆう」という雑誌があり、問４の新たに置いてほしい雑誌名にも「ゆうゆう」がある。これは、この雑誌が図書館に既にあることを知らなかったという人ですか。

→はい、そうです。

事務局：この雑誌・新聞のアンケートはこれまで一度も取ったことがなく、図書に関してはリクエストといって、ご希望があればリクエストしていただき、その本を購入するというように、利用者の声を反映できるようにしていますが、雑

誌や新聞はきりがないと言いますか、偏った意見も出てくるため、今までご意見をお聞きしていませんでした。しかし利用者から、図書館に置いてほしい雑誌や新聞がある場合、どうやったらその声を聞いてもらえるのか、というご意見をいただいたため、今回アンケートを行い、おひとりの意見ではなく、他の方のご意見も聞いたうえで見直すという運びになりました。閲覧の関係のことはここには盛り込まれていないため、信憑性がどうかというところが難しいところであります。

意見：雑誌や新聞は本と違って、たとえばスポーツが好きな人はそれを望むし、関係ない人はそれはいらないとなり、とても難しいと思います。また、気楽に図書館に行って、何となく手にして読んでいるものを把握するのは難しいと思う。買ってほしいという人はそれが大好きだけど、他の人から見れば偏っていると受け取られるかもしれない。図書館の方の考えを信じて、それを受け入れるのが一番良いのではないかなと思います。

（２）第１４回にしお本まつりについて

黒野主任主査より、にしお本まつりのチラシにて説明。

メインは「絵本作家 飯野和好さんの講演会」。これは一般向けの講演である。これ以外で今年新規のイベントは３つ。「おはなしバトンタッチ」は、昨年までは「おはなしメドレー」というタイトルで二日間にわたって実施していたが、今年は地元出身の絵本作家の読み聞かせを３グループに半日で実施していただく。「新聞紙で花コサージュ作り」は、図書館で保存期限が切れて廃棄する新聞紙を使ったコサージュづくりをするというもの。「館内検索機を使いこなそう」は、図書館内にある本の検索をする機械で、上手に本を探す方法を職員が教えるというもので、昨年１１月のシステム変更で、この機械の画面の見え方も変わったので、今回この機会にこういった催しとして入れてみた。

（３）各館の運営について

原田館長より、「西尾市図書館の運営」等をもとに説明。

施設維持管理は４館とも業務委託で実施。図書館業務委託は、本館は直営、一色は昨年度から指定管理者制度を取り入れており、指定管理者はエリアプラン西尾、運営は協力企業のエムアイシーが行っており、令和１３年３月までの実施となる。吉良・幡豆図書館は今年の６月から３年間の長期継続契約により図書館流通センターが業務を行っている。運営形態ごとに直営、指定管理、業務委託ということで、業務を委託している範囲が少しずつ違っている。指定管理については図書の選定と廃棄の業務以外はすべて本館と同じ業務を行っており、管理権限を持っている。施設維持管理業務以外の予算は指定管理業務の中に含まれている。吉良・幡豆の業務委託については、管理権限は本館が持っており、業務委託で行っているのは、窓口業務、利用促進事業、日常施設管理、例えば蛍光灯の交換、壊れたものの応急処置、建物管理の業務が入った場合の調整と確認を行っている。

資料の一色学びの館のモニタリングについては、平成３１年１月から３月までと令和元年４月から６月までの運営状況を評価したものの結果となる。一色については、隣接する一色町公民館、子育て多世代交流プラザ、一色学びの館の３館全体で、にぎわいを創出するということでエムアイシーが運営をしているため、まとめてモニタリングを行っている。改善レベル判定書もとにして、このモニタリングの結果を出している。吉良と幡豆図書館は業務委託ではありますが、同じように評価をしていく必要があるということで、平成３０年度から委託業者に対して自己評価ということでモニタリングを行った。この結果を見ていただくと、一色と吉良幡豆の図書館では取り組み方が違うことがわかる。一色は、様々な事業を打ち出し絵本館の特性を出すという自主事業が多く盛り込まれている。これに対して吉良と幡豆はやや事業が定例的になっていたり、委託業務を受けてから期間も経っているため、慣例的になっているところがある。今回、業者に自己評価をしていただき、よく理解していただいた。今年度

からの利用促進事業については違う捉え方をしてほしいとお願いをしたところである。

続いては、今後の本館の運営についてです。これまでも、指定管理は期間を限定することもあり、地域に関連するレファレンスや蔵書管理の継続的なことが難しいということで指定管理者制度は導入しないという方針で来ていた。しかし、指定管理には進まないという方針ではあるが、市の行政改革であったり、職員定数の適正化計画で職員数の削減がすすんでいる。民間で担える部分は外部委託をすすめてはどうかというところでそこを考える時期にも来ている。正規職員の司書の有資格者も合併したこともあり、有資格者が１０人中６人となっている。しかしあと５年もすれば減ってきて、実際に働ける有資格者がたいへん少なくなってしまう。今と同じ形での運営を続けていくのに限界が来るのでは、ということが懸念されるため、本館業務の委託方法について、アウトソーシングを考えつつ、業務を委託するのに、どの業務を委託するのかといったことや時期等の調査を進めて行きたいと考えている。委員の皆さまに、それに対してのご意見をお伺いしたいと思います。

意見：ふれあいセンターも、エリアプラン西尾に施設維持管理を委託しているが、実際に修理等に来るのは、下請けの下請けになり、その会社が名古屋にあるため、すぐに対応してくれない。委託になる前は地元の近くの業者だったため、すぐ来てくれた。ほかの施設はどうかわからないが、私たちは委託になり不便さを感じている。

意見：一色３館でのお手伝いをよくしている。指定管理になってジャズや落語など行事がとても多くなった。一色に住んでいる者にとってはとてもありがたい。これは外部委託した良い影響だと思う。業者は実績を上げたいので、たくさんの行事をやっている。そういった良い面が一色では出ていると思う。一色をもっと盛り上げるために、管理者やボランティアが集まって会議を行っているが、どうしたらもっとみんなに知ってもらい、広げていけるか考えたい。行事を広報に載せているが、まだまだご存じない方も多い。どうしたらたくさんの人に知ってもらえるかご意見をいただきたい。

→幡豆からでも一色に聞きに行くのは、本当に時間があって、本当に好きな人でないと行けない。まして西尾ならもっとそうである。好きな人はパンフレットがあるので行く可能性はあると思うが、幡豆に広めてくれてもたぶん行かないと思う。

図書館ですので、本の専門家の人の意見が、図書館を業務委託した時に、その声がどれくらい充実するかどうか。今は、委託の人たちに聞いても、本館に聞いてみますと言ってそこで即答できない。委託した時に本当の意味で有資格者がいてくれるのか、そういうところが不安になる。購入についても、業者からセットで送られてくる。他人任せになってしまうようなところがあると感じる。難しいところだと思う。専門家の人がいるか、職員だと、自分の仕事だと思って本当に真剣にやってくれる。

意見：外部委託すると、実績を残すために色々なことに手を広げすぎ、忙しすぎて、本来の司書がやるべきことがどかされているような感じがする。本来の図書館業務を忙しい中で行うこととなり、欲張りすぎて本当のところを見失っていくような気がする。ゆっくり本が読みたいと思っている人の隣で、イベントでガチャガチャやるとかではなく、本来の図書館に戻っていけたらいいのではないかと私は思う。

質問：外部委託ということで、保育園では民営化している園も増えているが、その園の先生方とは会議で一緒になり意見を交わすことがあり、良いところは市でも取り入れさせていただいたりしているが、図書館では意見を交わすことはあるのか。

→現在すでに４館が色々な形になっている。月に１回、業務の連絡調整を図る定例会があり、もうひとつは選書会議で、選書に関して実際のカウンターで聞く

利用者の声を参考にして決めていくため、４館の担当者が集まって、月に１回行っている。

意見：競争させないとなかなか良くなっていかなので、良いと思います。一色学びの館は、職員が親切、丁寧でほんわかする対応をしてくださったので、良かったという印象がある。広報を見ても、一色学びの館の行事がたくさん載っているが、やはり遠いから動けない。

意見：利益優先ではなく、情報や本に関する知識を持っている方がその職についていただけたらいいと思う。

意見：中学生がいかに図書館に足を向けるかが大切。学校図書館でも、そこの学校司書のスキルによって違ってくる。公共図書館も、直営なのか委託なのか、そのスキルがある人がいるとよいと思う。また、情報公開をし、それぞれの館の格差がないようにすべきだと思う。

（４）その他

原田館長より、９月末にあるイベントを紹介。「まちと光のフェスティバル」は鶴城公園を会場にＪＣ西尾青年会議所が行うが、それに併せて図書館でも夕方ロビーコンサートを行う。図書館で音楽は、ということもあるかもしれないが、午後５時４５分からという一般の利用者も減ってくる時間なので、図書館でのコンサートもよいのではないかと思い開催します。ぜひ足をお運びください。

内藤部次長　御礼の言葉

会長により西尾市図書館協議会を閉会した。